

KTK

NO. 79

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道24-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

今年は、福井県へ。恐竜博物館の見学や「ちくわ作り」の体験もしました。夜の宴会はみんなで盛り上がりました。



年に一度の大イベント 給料積み立て

一泊旅行

「ワークセンターあらぐさ」では、毎月の給料を積み立てて年に一度、一泊の旅に出かけています。

旅行に出かけることで、働く目的となるようにし、集団での旅行で、普段できない体験や経験を積むことになるようにと考えて取り組んでいます。年に1回の大きなイベントで、利用者もそれぞれ楽しみにされています。

行先は、ガイドブックや日本地図を用意し、それを見ながらみんなで相談し、何か所かの候補地をあげ、旅行会社にそれぞれのコースを作ってもらいます。できあがったコースの中から、全員による多数決で、行先を決めています。

みんなで話し合っって候補地を選んでいく過程もとても大切だと考えています。これまでに、香川県での「うどん作り」体験や瀬戸大橋を見に岡山県、東京ディズニーリゾートなど毎年あちこちに行っています。(2頁に続く)

ずーっとこのまま

平和でありますように！



事前の取り組みを大切に

昨年の旅行は広島でした。行先が広島に決まった段階で、「せっかくだから広島に行くのなら、行く前に平和学習をしよう」と提案しました。これまでに、原爆が落とされた広島や長崎に行ったことがある人や、毎年6月に乙訓地域を通過する「平和行進」にも参加していたからです。1回目の学習会では、まずはみんなに広島のイメージを聞きました。

自宅ですべて持ってきてくれた人もいて、少なからず心に響いたように感じました。

2回目の学習会では、「原爆ドーム」の学習をしました。

もともとは「広島産業奨励館」であったことや、緑の屋根のきれいな建物であったことも、インターネットの映像をみて勉強しました。平和公園についても、インターネットの動画を見て、「鐘がある」「折鶴が飾ってある」などつぎつぎとイメージをふくらませていきました。また、絵本で「真っ黒なお弁当」についても学び、実際に原爆資料館で「お弁当」を見ようということになりました。



原爆ドーム

広島の思い出 K

あらぐさのみんなで、広島に行きました。ろめんでんしゃで、原ばくドーム前に行って原ばくドームにつきました。原ばくドームを見て、せつめいを見ました。ドームを見て思ったことは、アメリカのひこうきがくるまえは、とってもきれいなさんぎょうかいかんだったのに、げんぱくがおちてボロボロボロになってしまって、かわいそうでした。

次に、平和のかねを見に行きました。とてもきれいなかねでした。私は、かねをならさないで見えました。そして、かねのおとをきくと、平和がいいなあとおもいました。次に、げんぱくの子のぞうのどこに行きました。おりづるのどこに行くと、つるをおきました。おりづるにおねがいをしました。ずーっと、このまま平和でありますようにといのりしました。（一部抜粋）

展示品に目を背けることなく

当日、みんなは、「原爆ドーム」を無言で見上げていました。

壁が崩れ、たぐさんのコンクリートが周りに落ちていた建物を見て、何かを感じられたように思いました。説明プレートに「読んでください」と職員に言われるなど、興味をもつ姿もありました。みんなで作った折り鶴も「原爆の子の像」に飾りました。



「広島焼き」

原爆資料館では、かなりショックな人形なども展示されており、「怖い」といわれる人もありましたが、それでも目を背けることなく、破れた衣類や弁当箱などの遺品をゆっくりと見て歩きました。

原爆によって形が変形した瓶や禎子さんが実際に折られた折り鶴、真っ黒になった「お弁当」など、事前に学習したことは、特に興味をもって見ていました。

仕事だけでなく ワークの役割

あらぐさの施設の中だけでは体験できないことを、みんなと体験することで一緒に学びあえることの大切さを、今回の旅行で気づきました。

事前に学習したことで、興味をもって、その当時の人々に気持ちを寄せ、感じる事ができたのだと思います。このような経験を積み重ねていくことが成人期の方々にとって大切だと考えています。

帰りの新幹線の中で、「楽しかった。また仕事がんばろう」と、お互いに言い合う光景がありました。給料を積み立てて旅行に

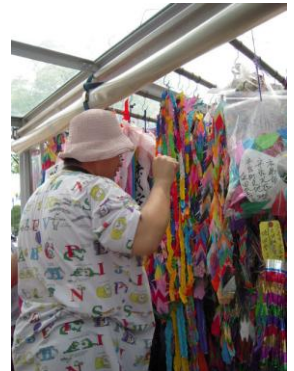
行っていることが、長年の経験で「何となく」分かっているという人もあり、それが、日々の仕事の「やる気」につながっている人もあります。仕事だけではなくワークセンターの役割の幅広さを感じています。

広島Mの思い出

原爆ドームはとてもかわいそうで、壁も壊れて涙が出そうになりました。平和記念館へも行きました。真っ黒なお弁当箱もあったし、髪（いはつ）もあったし、三人の子供達が焼け跡になったのがとてもかわいそうかったです。

その後、平和の鐘を鳴らしました。とても美しい音で鳴り響いていました。その後、原爆の子の像を見てお祈りをしました。

(一部抜粋)



折り鶴

ワークセンターあらぐさ

就労継続支援B型事業。

現在10名の利用者がおられ、就労や生産活動の機会を提供し、必要な知識・能力が高まるように支援しています。

主に菓子生産活動(クッキーやパウンドケーキ作り等)、さをり織り活動、花卉生産、医院の掃除などに取り組んでいます。また地域のイベントに参加することや作品展を催すことで、自分たちが作ったモノを通して地域とのつながりを大切にしていきます。

最近では、さまざまな地域団体の皆様からも、注文のお電話をいただくようになりました。

これらの利益は、給料として毎月末に利用者にお渡ししています。

また仕事もがんばろう！

経験を積み重ねて「仕事のやる気」へ

障害の重い人たちの地域での生活づくり

(福)訪問の家 ケアホーム統括課長 田崎 憲一 さん

6月12日(日)、あらぐさ後援会総会の2部として、横浜から訪問の家ケアホーム統括課長田崎憲一さんをお招きして学習会を開催しました。田崎さんのお話の概要を紹介します。(お話や当日の資料をもとに、広報部の責任でまとめたものです)

ケアホームの立ち上げ

重症心身障害者の通所施設「朋(とも)」には、鼻腔栄養、胃ろう、気管切開などされている方も利用されている。

平成3年、「朋」の親が自前で家を借り、当時の「緊急一時」の制度ではカバーできない取組を始めた。「ちよっとリフレッシュ」「急に明日」という場合の必要を親同士でカバーしようという発想だった。しかし、親同士では安定せず、自前で職員を雇った。この時に、「朋」をやめて、自主運営の職員になったのが田崎さんです。

平成6年に、「朋」が、その事業をケアホーム(以下CH)事業として始めた。

以後、増え続け横浜市栄区に6軒、磯子区に3軒のCHを持つようになった。23年度には各区分1軒増える予定。

「コール」「感知センサー」などの機器を使って職員が察知できるように工夫している。

重度訪問介護を月に250時間うけ、起床から通所までと、帰宅から就寝までの時間をヘルパーを利用して利用している。

支援の体制

CHには常勤職員とSヘルパーがいる。Sヘルパーとは、常勤職員の補佐的な役割をし、CHの食料、日用品の管理等ハウスキーパー的な役割をする。

常勤職員の賃金は自立支援法による報酬で賄われるが、Sヘルパーの賃金は、利用者の自己負担となっている。(月額7万円)しかし、利用者は生活保護の給付を受けており、他人介護料として月額7万円が給付されている。

三つの関係

通所施設での昼間の生活——CHでの生活——親 この3つの関係がうまくいくように、通所施設とCHは連絡帳のほかに、毎日電話連絡もしている。会話により

「気づき」がある。親がCHに不信感を持つと、それは、子供に伝わり、結果としてうまくいかなく

なる可能性がある。親が不信感を持たないように、情報交換をよくすることが必要だ。

人材の育成・確保

意思表示の弱い人の介護は、介護者の価値観での介護になりがちである。メンバーの人となりを知ってもらう。ヘルパーが変わると介護が変わるのは、本人の負担となる。それを避けるために、申し送りやヘルパーとCH職員とのコミュニケーションを密にし、月1回のヘルパーのミーティングなどでの「気づき」を大事にしている。長く安定して続けるために、人材育成は大事だ。

医療的ケア

必要な人が多い(高齢化、重病化)。通所している施設にはナースがいる。朋診療所にはドクターがいる。医療的ケアを必要とする人には、細かなステップをふんで、医療的ケアをしている。

CHで、対応で相談したいことが発生したら、直接施設のナース、朋診療所のドクターに直接連絡できるようにしている。普段を知らない医療機関に連絡すると説明が通じにくい。

あらぐさ後援会 23年度総会開催

あらぐさ福祉会の恒常的支援へ

「あらぐさ支援募金」開設

集合型ケアホーム建設支援募金を贈呈

平成23年度、あらぐさ後援会総会が、6月12日(日)に障害福祉センターあらぐさホールにて開催されました。

提案された22年度事業報告・決算報告・監査報告、23年度事業計画・予算案は、すべて承認されました。

昨年度力いっぱい取り組んだ「集合型ケアホーム建設支援3000万円募金」は、後援会員の皆様をはじめ、多くの市民の皆様方のご支援をいただき、28,299,483円を集めることができました。知人友人への依頼や募金箱の設置、街頭での募金・宣伝活動、諸団体への協力要請活動、バザーや物品販売、支援グッズの制作販売等々、貴重な取り組みの成果をみんなで確認しました。

後援会員も前年度より263会員を増やすことができました。決定された23年度事業計画は次の通りです。(要約)

一 あらぐさ福祉会の活動支援と協力を行います。

① 集合型ケアホームの中味づくりを支援し、学習会や見学会を企画

② あらぐさ福祉会のさらなる事業展開と施設整備資金

について支援

新たに「あらぐさ支援募金」を設け、幅広く恒常的に支援

あらぐさ支援募金

1口 1,000円

二 広報誌「あらぐさ通信」を年3回発行

三 後援会員の拡大

後援会員1千名をめざす

四 専門部(広報部・事業部・組織部)をおき、日常的に後援会活動を企画、展開

新しく選出された役員は次の方々です。(敬称略・五十音順)

会長 野々下靖子

副会長 中川千津子・増田康夫

事務局長 大槻昭

役員 芦田幸子・栗田紀江

栗野賢・稲葉薫・木村崇・

角根子・永崎靖彦・中島悠

太・真殿尊子・丸岡正子・

三谷文菜

会計 上田素子

会計監査 大江文子・宋明子

外部監査 中野修

総会の最後に、西田理事長に増田後援会副会長から支援募金の目録が贈呈されました。



出席者からの発言



田崎さんの講演



支援募金の贈呈

平成23年度 後援会員の更新と新規加入のお願い

1000名の後援会を目標にしています。お知り合いの方にもぜひお誘いください。

個人会費 1口 1000円 団体会費 1口 2000円

「あらぐさ支援募金」のお願い

あらぐさ福祉会の事業を継続的に支援するための募金を新たに設けました。

1口 1000円

本号に同封の郵便振替払込用紙をご利用ください

すでにご入金いただいた際は何とぞご容赦ください。

乙訓から福島へ 被災地での調査と支援

障害福祉センター あらぐさ

職員 栗野 賢さとる



「わいわい作業所」は、9台の車が流された（いわき市）

4月4日～13日まで、きょうされんボランティアとして東日本大震災の被災地、福島県に行ってきました。現地では「JDF（日本障害フオーラム）被災地障がい者支援センターふくしま」の活動に加わり、障害のある方の避難所での生活の実態や避難所に入れない方たちの調査を行うため、福島県内全域を回り、避難所の訪問や支援物資の運搬を行いました。

福島県内には4月になっても雪の残る地域もあり、とても寒い避難所の中で薄いゴザ一枚の上に布団を敷いて寝なければならぬという厳しい生活を余儀なくされている現実がありました。

津波で大きな被害を受けた沿岸部地域も回りました。そこにあつたはずの建物が全てなくなり、自動車や漁船が転がり、そこら中にかれきが散乱し、橋の上には大木が横たわっているという状況に言葉を失いました。

沿岸部地域の作業所では、「パンを作っていたが、パンを作る機械が流されてどうしたらよいか分からない」、「9台あった車が全て流され、移動もままならず困っている」というような状

況でした。車が全て流された作業所には、熊本の作業所から車の提供があり、支援物資とともにその車を届けに行くというところもしました。

毎日、各地の避難所を訪問している中で、障害のある方にはなかなか出会うことが出来ませんでした。出会ったのは、入所施設・作業所など、法人全体の利用者69人と職員が一緒に避難し、山間の施設を貸し切る形で避難生活を送っている方々や、避難所に入ったが、夜中にパニックを起こしてトラブルとなり、たまたま空いていた個室で家族と一緒に生活しているという方。避難所での生活が厳しいため、親戚や知人の家を転々としているが、貯蓄も食料もいよいよ底をつき、避難所に食料を分けて欲しいと連絡をされたという方でした。これは障害のある方が、避難生活を送るためには施設全体としてまとまって避難するか、親戚や知人の家を頼るしかないためでした。

震災の直後から障害のある方たちが避難所で生活する事が出来るのだろうかという疑問に思っています。その困難さを目の当たりにしました。

しかし、避難所に避難しなければ食料や生活用品といった支援物資が届かないという現実があります。障害があるから避難所に入れない。避難所に入れないから支援物資が行き渡らないというこの現実には、「障害」を理由に生きる権利をないがしろにされているということです。

今回の経験から、災害時に障害を持つ方が生活することの難しさを知りました。障害のある人もない人もみんなが大切にされる社会を早く築いていかなければならないと思いました。

あらぐさが加盟する「きょうされん」（旧称・共同作業所全国連絡会）は、全国1800か所を超す作業所や施設・事業所が加盟する組織です。障害のある人たちの豊かな地域生活の実現に向けて、取り組んでいます。

東日本大震災にあたっては、支援募金を呼びかけるとともに、被災地の訪問調査活動や被災した事業所の再開に向けた現場での実践支援を継続して行っています。

長期にわたる支援が必要

あらぐさ福祉会

統括事業長 村山容祥 まさよし



亀岡福祉会の小松さんと筆者(右)

私は、先に福島県の被災地支援に行っていた栗野職員から、「JDF(日本障害フォーラム)被災地障害者支援センターへくしま(郡山市)で、活動できる車が不足していることを聞きました。

乗りの換え予定であった法人のリフト車を使っていたらしく、にし、きょうされん京都支部の救援物資(マスク、オムツ、トイレットペーパー等の衛生用品や肌着等の衣類)を満載して、亀岡福祉会の小松職員と二人で、目的地の郡山市まで730kmを走り届けてきました。名神大山崎から北陸周りで新潟から磐越道に入り、会津若松から東北道を経て、郡山市まで約12時間の行程でした。

4月26日に「支援センターへくしま」で、受け入れ先のNPO法人共働作業所ピーターパンの穴沢さんにリフト車を引き渡しました。この作業所は、天ぷら油等の廃油を利用して、バイオディーゼル燃料を月に1000ℓ生産しており、届けたリフト車はディーゼル使用のため、燃料費が不要で、今後の活動に大いに助かります」と喜んでいただくことができました。

法人格を有する施設等は、知福協や親の会によって調査が行われていましたが、小規模作業所や地域活動センターについては、まだ被害状況が把握されておらず、「支援センター」は、これらの事業所の被害状況調査を主として行っていました。

4月26日は、各地(九州、広島、京都、千葉 各2人)から応援に来ていた人たちと一緒に、2人一組で福島市内の小規模作業所や地域活動センターを訪問することにになりました。使い慣れないナビゲーションを頼りに四苦八苦しながらの調査でした。私たちが訪問した事業所では、地震での建物等の被害は殆ど見られませんでした。インフラ(電気、ガス、水道)の関係やガソリン不足で送迎等ができず、約1ヶ月休止した所が多くありましたが、現在では通常の活動に戻っていました。

次の27日は、広島に代わり京都の丹後のメンバーが加わって郡山市内の被害状況調査を行いました。前日とは大違いで、郡山の事業所の被害は甚大で、屋根瓦がズレたり、割れたり、外壁や内壁の亀裂や壁落ち、ガラスの破損等、訪問した事業所す

べてに被害が見られました。借家で運営している事業所は家主の修繕で賄われ、事業所の費用負担は生じないと聞きましたが、自家の所では事業運営が精一杯で、修繕費用の捻出が困難であり国や県等の公的援助が早急に必要だとの声がたくさん聞かれました。

また、観光地、温泉地の和菓子箱づくりをしている事業所では菓子製造会社の倒壊等で、今後の受注が途絶えるのではとの不安や、道の駅や観光農園での農産物等の販売が主な作業の事業所では、風評被害による観光客の減少で、利用者の給料や運営費の確保が出来るかが最も不安だとの声が聞かれました。支援センターにもどおり、聞き取りした修繕費用の援助や今後の不安な事柄を伝え、これらの声や要望を行政に届けていただくようお願いしました。

今後長期にわたる支援が必要であることを感じながら、4日間の支援を終え、京都へもどりました。

なお、4日間に人的被害の話が聞けなかったのが不幸中の幸いでした。

あらぐさ集合型ケアホーム建設支援募金活動のご報告

- ・スタートイベント
- ・ご持参、振込等による寄付・募金（1085 個人団体）
- ・街頭募金（13 回）
- ・支援募金協力の訴え（21 か所・団体）
- ・後援会物品販売（みかん、豆、黒砂糖等々）
- ・募金箱（設置の協力 25 か所）
- ・家族、利用者、職員、他団体等によるバザー、支援グッズ販売、イベント出店による収益の寄付

計 28,299,483 円

22年度あらぐさ後援会では、上記の建設支援募金と、特別会計から1800万円、一般会計から80万円を、ケアホーム建設資金として、あらぐさ福祉会へ寄付させていただきました。ご支援いただきました全ての皆様に心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

平成 23 年 6 月 12 日
あらぐさ後援会

高野 角田 篠原 佐藤 後藤 木村 北川 掛川 垣内 奥田 大久保 大江 江崎 大浦 上坂 岩崎 岩崎 今西 今井 今井 今井 井上 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 石原 石原 石原 栗原 栗原 栗原 荒本
泰裕 真弓 真弓 秀道 慎介 木村 美由 公一 保美 久保 文佳 延潤 恵美 道樹 泰子 英子 直子 保正 美彦 勝久 幸代 洋晃 恒芳 雅裕 紀士 和郎
宮水 丸山 丸山 松岡 松浦 松浦 増田 増田 前田 前田 前田 細井 細井 福井 東島 半田 半田 浜野 波多 西野 中野 中野 中野 中野 中野 中野 戸田 戸田 出田 津田 高崎
均子 彰子 正美 隆子 佳織 幸夫 智明 幸子 仁介 之介 雅代 克創 克祥 清子 希子 紀子 富雄 美子 史子 悠太 俊行 綾子 津之 代典 忠子 拓也 憲一 麻紀

ありがとうございます
後援会加入
ご協力いただいた方々
4月1日～7月10日
敬称略・順不同

村上 雄治 安武 真理
村山 容祥 安武 真理
森下 純隆 山口 武彦
安田 隆吉 吉田 治子

Tプラス
アトリエ
あらかぎ会
乙訓手話サークルでんでん虫
乙訓地区労働者福祉協議会
乙訓手をつなぐ親の会
喫茶 ビーンズ
京都府立向日が丘支援学校PTA
作楽サークル
下尾医院
西陣会からヴィジョン
ばんだ企画
平井鍼灸整骨院
平井鍼灸整骨院
ベールリー セルフイーク
匿名 10名

お詫びと訂正
前号にて掲載しました、平井鍼灸院は
平井鍼灸整骨院様の間違いでした。お
詫びして訂正させていただきます。

法人へのご寄付御礼
誠にありがとうございました
22年12月～23年6月
敬称略・順不同

学校法人山崎学園 吉田 美代子
山本眼科医院 山本 敏雄
寺家 義人
上村 義美
野々下 靖子
あらぐさ後援会
匿名 5名

| 資産の部 | | 負債の部 | | | |
|---------|----------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 流動資産 | | 149,551,261 | 流動負債 | 2,092,377 | |
| | 現金預金 | 107,141,104 | | 未払金 | 2,085,777 |
| | 原材料 | 974,999 | | 預り金 | 6,600 |
| | 未収金 | 40,297,158 | | | |
| | 立替金 | 88,000 | | | |
| | 仮払金 | 1,050,000 | 固定負債 | 124,607,820 | |
| 固定資産 | | 470,211,982 | | 設備資金借入金 | 120,050,000 |
| | 基本財産 | 428,480,866 | | 退職給与引当金 | 4,557,820 |
| | その他の固定資産 | 41,731,116 | 負債の部 合計 | | 126,700,197 |
| | | | 純資産の部 | | |
| | | | 基本金 | | 120,266,119 |
| | | | 国庫補助金等特別積立金 | | 190,516,838 |
| | | | その他の積立金 | | 18,887,968 |
| | | | 次期繰越金収支差額 | | 163,392,121 |
| | | | 純資産の部合計 | | 493,063,046 |
| 資産の部 合計 | | 619,763,243 | 負債及び純資産の部 合計 | | 619,763,243 |

資金収支計算書

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

| 勘定科目 | | 金額 |
|---------------|--------------|--------------|
| 就労支援事業活動による収支 | 就労支援事業収入計 | 8,757,731 |
| | 就労支援事業支出計 | 8,757,731 |
| | 就労支援事業資金収支差額 | 0 |
| 福祉事業活動による収支 | 福祉事業収入計 | 256,997,612 |
| | 福祉事業支出計 | 221,156,071 |
| | 福祉事業活動資金収支差額 | 35,841,541 |
| 施設整備等による収支 | 施設整備等収入計 | 45,830,248 |
| | 施設整備等支出計 | 151,725,839 |
| | 施設整備等資金収支差額 | -105,895,591 |
| 財務活動による収支 | 財務収入計 | 100,236,119 |
| | 財務支出計 | 22,879,144 |
| | 財務活動資金収支差額 | 77,356,975 |
| 当期資金収支差額合計 | | 7,302,925 |

| | |
|-----------|-------------|
| 前期末支払資金残高 | 139,180,960 |
| 当期末支払資金残高 | 146,483,885 |

事業活動収支計算書

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

| 勘定科目 | | 金額 |
|---------------|--------------|-------------|
| 就労支援事業活動による収支 | 就労支援事業活動収入計 | 8,757,731 |
| | 就労支援事業活動支出計 | 8,883,685 |
| | 就労支援事業活動収支差額 | -125,954 |
| 福祉事業活動による収支 | 福祉事業活動収入計 | 251,873,685 |
| | 福祉事業活動支出計 | 217,288,938 |
| | 福祉事業活動収支差額 | 34,584,747 |
| 事業活動外収支 | 事業活動外収入計 | 17,278,015 |
| | 事業活動外支出計 | 17,752,144 |
| | 事業活動外収支差額 | -474,129 |
| 経常収支差額 | | 33,984,664 |
| 特別収支 | 特別収入計 | 46,098,828 |
| | 特別支出計 | 61,052,402 |
| | 特別収支差額 | -14,953,574 |
| 当期活動収支差額合計 | | 19,031,090 |
| 繰越活動収支差額 | 前期繰越活動収支差額 | 138,790,160 |
| | 当期末繰越活動収支差額 | 157,821,250 |
| | その他の積立金取崩額 | 20,401,119 |
| | その他の積立金積立額 | 14,830,248 |
| 次期繰越活動収支差額 | | 163,392,121 |

第34次国会請願署名・募金のお礼と報告

皆様にご協力をお願いしました、「きょうされん」第34次国会請願署名・募金運動」は、署名5,084筆、募金149,178円が集まり、いずれも目標を達成することが出来ました。誠にありがとうございました。

今回は、あらぐさ通信に署名用紙を同封させていただき、読者の方からたくさんの方の署名・募金を寄せていただきました。

昨年に引き続き、利用者・職員が取り組んだスーパの前での街頭署名活動では、昨年の「コープらくさい」に加え今年は「マツモト大原野店」でも取り組みが出来、大きな前進がありました。また、地域のさまざまな団体からもたくさんのご協力をいただきました。

きょうされんでは、5月26日に全国から集まった100万筆を超える署名をもって国会議員をまわり、258名の方々に紹介議員になっていただきました。

現在、国会での審議を待つという状況ですが、今年改正される障害者基本法の中に、国際水準である障害者権利条約の内容をしっかりと反映させることや、障害者自立支援法に変わる新しい法律の制定など、障害者の福祉充実のための運動に引き続き取り組んで参ります。

今後ともご支援の程、よろしく願います。

障害福祉センター あらぐさ

ケアホーム かぞぐるま

サポートセンター あらぐさ

(2011.7.10 現在)

きせきてきひつじ 奇蹟的羊

～あらぐさの森ってどんなトコ？～

2011年10月25日(火)～31日(月)

10:00～17:00 (最終日のみ 15:00 まで)

ワークショップ 10:30～15:00 (土曜・日曜は行いません)

会場 アトリエ畔 井ノ内粟生川久保2-5 (光明寺門前北)

今年も やります！ フェルトの作品展「奇蹟的羊」。
今回のテーマは“あらぐさの森って どんなトコ？” “どんな世界が待っているかは、見てからのお楽しみ。
あらぐさの森の世界を のぞきにきてください。

ワークショップも開催予定 フェルトに興味のある方 ぜひご参加ください。

平成4年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2011年8月8日発行 KTK増刊通巻第3680号 発行所 京都障害者団体定期刊物協会 〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階 京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信